

# 火と関わる活動

キーワード：火、火おこし、たき火、かまど、蠟燭、ランプ、提灯、野外調理、炭作り、パーベキュー、焼き芋大会、どんど焼き、飯盒炊爨、キャンプファイヤー、

火は暖をとったり、調理をしたりするために欠かせません。たき火や囲炉裏を囲み、ばちばちと薪が燃える音を聞きながら、炎を見つめていると、自然と心が安らぎます。たき火やかまどでさまざまな調理をするのは時間も手間もかかります。また、火をおこすには風の向きや強さを見たり、良く燃える乾いた素材を集め、落ち葉・小枝から太い木片へ燃え移らせるように、徐々に火を育てていく必要があり、知恵も経験も必要です。苦労して火をおこし、薪を拾って火を維持する経験を積むなかで、子どもたちは、人間が古来温かい食事をするために行ってきた営みを体験的に知ることができるでしょう。また、火は扱い方を間違えれば危険なものです。火の始末を学び、付き合い方を体得することが大切です。

### 火との多様な関わり方

- マッチを擦る
- 火をおこす
- よく燃えそうな薪を探す
- たき火に薪をくべる
- たき火にあたる
- たき火で調理する
- 提灯に灯をともす
- 蠟燭に灯をともす



### 火がもたらす味わい

- 火の温かさを味わう
- 炎の色を楽しむ
- 蠟燭の炎のゆらめきを楽しむ
- ばちばち燃える音を楽しむ

### 火と関わることによる気づき

- よく燃える素材に気づく
- 空気を送ると火が変化することを知る
- 落ち葉や小枝を立体的に組むとよく燃えることに気づく
- 燃えたあとの木が炭になることを知る
- 炎の明るさや熱の力に気づく
- 煙の色やにおいを知る
- 鼻や喉で煙たさを感じる
- 風向きと煙のたなびく方向との関係に気づく
- 夜、炎に虫が集まることに気づく
- 火と人間の生活の結びつきに気づく

**火を扱うときのポイント・注意点**

- ・火を扱う際には、木綿など燃えにくい素材の服を選ぶ。(ジャージ素材、ナイロン素材などは燃え移りやすい)
- ・軍手を着用し、肌を露出しすぎないこと。
- ・乾いた松葉、小枝、落ち葉など、森の中から着火しやすいものを探す過程も、学びの一環となる。
- ・風の向きに注意し、風下に立たないよう配慮する。
- ・花粉症のある場合、杉の木を燃やした煙が刺激になるので注意すること。
- ・消火用の水を準備しておくこと。
- ・周囲に延焼しないよう、燃えやすいものは遠ざけておくこと。
- ・薪を割る作業をする場合、なたでの怪我に注意すること。
- ・火の回りでふざけたり走ったりしないよう注意する。

**コメント [u1]:** このカテゴリに入る可能性のある活動やイベント等を列挙する

**コメント [u2]:** リード文で、テーマとなる素材と人間との古来のつき合い方を提示し、人間の生活にとってそれがどのような意味を持つものなのかを根源的に示す。そのうえで、子どもの生活の中にそのテーマをどのように取り入れうるのかのヒントを示す。

**コメント [u3]:** テーマに対しての、子どもの主体的なかかわり方の可能性を示す。あくまで、子どもの主体的な経験や行動であり、大人がそれを「行わせる」ことを目的としてはならない。

**コメント [u4]:** テーマとなる素材にかかわる際、子どもが感受するであろう心情的な影響や味わい。

**コメント [u5]:** テーマとなる素材にかかわりながら、観察したり、試行錯誤したりするなかで、子どもが学び取っていく可能性のあることがら。

## 火と関わる活動における各年齢のねらいの例

### 3歳未満児

大人や年長の子もとともに火にあたり、あたたかさを味わう  
火に近づき、手をかざしてみたりすることで火に親しみを持つ

### 3歳

年長の子もたちの様子を見ながら、どうやって火をおこすのか興味を持つ  
自分でマッチを擦ってみたり、落ち葉や薪を火にくべてみたりすることで、火に親しみを持つ  
薪拾いをすることで、よく燃えるものと、あまり燃えないものがあることに気づく

### 4歳

マッチやライターを使って火をおこすことに挑戦する  
火の勢いを維持したり、もっと大きくしたりするためにはどうすればよいか考える  
火をつかった調理を楽しむ

### 5歳

落ち葉などさまざまな素材を用い、組み方を工夫して、確実に火をおこす方法を考える  
うちわなどの道具を使って、空気を送ると火を大きくすることができることに気づく  
交代で火の番をするなど、仲間とともに責任をもって火に関わろうという思いをもつ

**コメント [u6]:** 年齢発達ごとの、テーマとなる素材とかかわる活動のねらいの例。味わいや楽しみ等情動的な面の成長を中心としたねらいとする未満児、3歳児から、徐々に年長児になるにしたがって、テーマと深くむきあい、自分で考えながら、仲間と工夫して取り組むなどの意欲、態度面のねらいへと深まるよう、活動を広げていくことを示したい。1回の活動のねらいではなく、期、年といった時間的幅をもたせたテーマ活動のねらいとして提示している。

### 環境構成上の工夫

\* さまざまなたき火スペースの作り方

## 火をテーマにした実践事例

(以下 ダミー \*内容はソニー財団幼児教育支援プログラムのHPより)

### 1. 森のようちえん N園の実践

対象 未 3 4 5  
季節 春 夏 秋 冬  
フィールド 山 川 森 園庭

#### 【園の理念・保育方針】

豊かな自然体験をする中で、子どもたちが主体的に、心ゆくまで自分の力を試し、発揮して、様々なことに気づき、学んでいくことを大切にしている。そのため、“とことん待つ”という姿勢で保育を展開し、子どもたちが体と頭と心を使って様々なことを獲得する過程を大事にしている。

【テーマ】 火

【ねらい】 火おこしの技の獲得

【活動名】 大きく長く燃え続ける火をおこそう

【実践レポート】

<火起こしの実践>

火起こしが誰も出来ないという状況の中で、果たして子どもたちはどのようにして火起こしの技を培っていくのだろうか。日々の野外料理の記録をもとに、火にかかわる子どもたちの変化を捉え、子どもにどのように科学する心が育っていくかを考察する。

5歳児=A児 4歳児=B児、C児、D児 3歳児=E児、F児、G児、H児、I児



コメント [u7]: その施設がどのような思いをもって自然保育に取り組んでいるのか、テーマに取り組むまでの背景や園文化とといったものを示す。この部分をきちんと示すことで、自然保育がその園において、どのように位置づけられているのかが理解できる。

#### 【事例1-1】新年度2回目の野外料理 (4月)

前回とは違って、朝から炉で火を起こす一生懸命な子どもの姿が見られる。炉には全く近付かず、森の中で遊ぶ子どももいる。

うまく火がついたり、その後、消えてしまったり、5歳児と4歳児が苦戦しながら根気よくがんばっている。そこに負けじと3歳児も仲間入りする。

4歳B児は初めて、始めから終わりまでずっと炉の前で火の番ができた。(せっかくなついた火も、落ち葉や枯れ木が足りなくなって、消えてしまうので、大人も落ち葉や枯れ木集めを手伝う)時間が経つにつれて、お腹すいた～の音があちこちから聞こえる。炉の前にいるメンバーはおやつを食べるのも忘れて頑張り続けた。

【事例1-2】「今日はついに食べられないか!!」 (6月上旬)

6箇所ある全ての炉を使って、思い思いにマッチで葉っぱに火をつけるまではすぐにできるが、その後の育て方をわかっている子がまだいない。パーっと大きな火が上がって満足すると、その場を離れてしまうので火が消えてしまう事態が続出。結局、全部の炉の火が消えてしまった。

この時点で11時。さて、どうする?子ども達は炉から離れてこの状況を把握していない。

そこで、「相談があるんだけど」という保育者の所に集まった子どもたちに、「今、全部の炉の火が消えてしまったこと」「このままだと今日のお昼ご飯は、食べられないこと」を伝える。

そして、もう今日は疲れるからやめようか・・・と投げかけたところ、

C児:「いやだ!やる!!」 M児:「私は、木を集める」D児:「マッチやる」

A児:「僕、葉っぱ集める」と、自分たちから言葉が出てきた。

まだ、ひとりで最初から最後まで火を育てることはできないが、個々の得意分野で役割分担して、ひとつの火をみんなで協力して育てる方法を子どもたちは編み出した。

3歳児がお腹を空かせて大泣きしたり、ぐずったりする中での再挑戦となった。  
 森に入ってA児、C児、M児は山盛りいっぱいの葉と枝を集めてきた。D児がそれに火をつける。  
 木材を大人たちがナタで割る。緊張感あふれる空気の中、集中力と気合の入り方がこれまでとは違  
 った。

【環境の工夫】

以前炉の数を限定した時、当然炉の真ん前を5歳児が独占して、年下の子どもは5歳児のやるこ  
 とを見ていることになり、そこで知らず知らずに多くのことを吸収していた。

「火起こしをやりたがる子には、どれだけでもやりたいただけ経験させてあげよう」という、これま  
 での取り組み方から、「使用する炉の数を限定して、連携しないと出来ない状況を作り、他の子ども  
 がやることを見て学ぶ経験を、意図的に作る」という環境の再構成を図る

考察

コメント [u8]: 事例に対する考察。

事例に示した具体的活動の中で、子どもが  
 何を学んだのかを、「事後的」に考察して  
 示す。あくまで、子どもひとりひとりの変  
 化を、事実在即して考察することが重要。

2. H大学附属幼稚園の実践

対象 未 3 4 5  
 季節 春 夏 秋 冬  
 フィールド 山 川 森 園庭



【テーマ】 火

【ねらい】 さまざまな木の燃え方の違いに気づく

【活動名】 ファイヤーの木を見つけよう

【実践レポート】

寒い冬には、暖をとるために日常的に焚き火をする。

焚き火では、普通の枝より、マツの木やトゲトゲの木（ネズミサシ）がよく燃えた。

それを見たA児は、さっそくとトゲトゲした感じの木を探してきて、それを焚き火の中に放り投げ、  
 いろいろな木で燃え具合を試している。“これはすぐに燃える”“これは燃えない”など、何度も小  
 枝を見付けては火の中に入れて試していた。

最終的にトゲトゲの木を探し当て、「これがポ〜と音を出してよく燃える」と言い、「これがフ  
 ァイヤーの木じゃ」と命名した。

そして“ファイヤーの木”を集めては火の中に入れ、その燃える様子を興奮して見つめていた。  
 そのようにして、何度も繰り返して、焚き火の中に“ファイヤーの木”を入れて喜んでいた。

その後も焚き火をする度に、A児は「ファイヤーの木を持ってくる！」と言って、すぐに木を探  
 してきて、ポ〜と燃えることを喜んでいた。

# 水と関わる活動

キーワード：水たまり、川、池、滝、湖、海、井戸、雨、雨どい、砂場を掘って川を作る、水をためる、

水はかたちを持ちません。さらさら流れ、澁み、たゆたいながら、一瞬たりとも同じところにとどまらない川の流れに入ると、そのダイナミックな動きを身体で感じることができます。雨の日は、ぼちゅん、びちゅん…とつぶやきながら落ちる雨の滴の音に耳を傾けたり、水たまりに長靴で入ったりする楽しみもあります。高いところから低いところへ流れる水の性質を知れば、地面に水路を掘って、水を流してみるあそびが生まれます。透明な水に花びらや葉っぱを入れて揉んでいると、ほら、きれいなジュースのできあがり。水に何かを浮かべてみましょう。葉っぱや小枝は浮かぶけど、小石は沈んでしまったね。水の不思議な性質にも気づかせてくれるような、豊かなあそびの可能性を探してみましょう。

## 水との多様な関わり方

- 水たまりを歩く
- 水たまりに葉を浮かべる
- 水に石を投げ入れる
- 川の流れる音をきく
- 川に入って流れを感じる
- 水面を手や枝でたたく
- 雨のしずくが落ちるのを眺める・音を聴く
- 濡れているものの手触りを感じる
- 地面に水を垂らす・流す
- 容器に水をためる



## 水がもたらす味わい

- 水の冷たさを感じる
- 川べりの涼しさを感じる
- 水の流れる音を楽しむ
- 雨のしずくが落ちる音を楽しむ

## 水と関わることによる気づき

- 水に浮かぶものと沈むものがあることに気づく
- 水を凍らせると氷になることを知る
- 雨の日に出てくる生き物に気づく
- 水の流れる力と方向を知る
- 手や石で水の流れがせき止められることを知る
- 水に濡れたものの変化を知る
- 水と人間の生活の結びつきに気づく

## 川や池であそぶときのポイント・注意点

- ・川遊びの場合、上流での降水によって、水かさが急激に増すことがあるので、特に天候には注意すること。
- ・子どもと一緒に川に入るときは、必ず大人の目の届く範囲で行い、川に入る前後で人数を確認するなど、安全確保に十分な配慮をすること。
- ・川に入る場合は、子どもの膝程度の水位を基準とすること。（深い流れでは足をとられやすい）

## 水と関わる活動における各年齢のねらいの例

### 3歳未満児

たらいやバケツに入った水に触って感触を味わう

水に入ったり、水を身体にかけあうことの気持ちよさを通して、水に親しみをもつ

### 3歳

川や雨どいなどを見て、水の流れる様子に興味を持つ

水あそびや泥あそびを通して、水の感触を楽しむ

水たまりを歩くことを楽しむ

### 4歳

穴を掘ったところに水を入れたり、容器で水をすくったりして、水たまりを作ることを楽しむ

川に草花や葉っぱを川に流して、流れに浮いたものの動きを楽しむ

砂場や地面を掘って水を流し、川を作ることを楽しむ

### 5歳

身近な素材で作った舟などを水に浮かべ、どうすればうまく浮かるか考える

川に住む生き物に興味を持つ

自然の川の中に入り、流れの速いところと遅いところがあることに気づく

環境構成上の工夫  
※さまざまな水場



イメージ：竹を使った水遊び

## 水をテーマにした実践事例

### 1. 山の遊び舎 はらぺこ の実践事例

対 象	未	3	4	5
季 節	春	夏	秋	冬
フィールド	山	川	森	園庭

【テーマ】：水（雨の日）

【ねらい】：雨の日の園庭の変化を楽しむ

【活動名】：「カッパを着てでかけよう」

【実践レポート】

梅雨空。今日も雨。毎日雨でつまらないけど、今日は特別！ カッパを着て長靴はいてお出かけだ！

カッパに雨が当たるとおもしろい音がするね。

雨の日の園庭には誰もいないからひろいねえ。毎日雨が降ってるから大きな水たまりもあるね。そうとなかに入ってみる？ 意外と深い。海みたいだね。こっちは川みたいに流れてるよ。雨が強くなってきた。

庭の周りにある大きな木の下で雨宿りできるかな。いってみよう。

あっちの木は雨がいっぱい落ちてくるけど、こっちの木は大丈夫だね。ねっこのこの土は雨が当たらないからサラサラしてるね。

このまま庭のはじっこを探検していくよ。

こんなところにこんな小さなお花が咲いてたよ。カエル見つけた！ 松ぼっくりが水たまりに浮いていて船みたいだね。

誰かが片つけなかったバケツにこんなに水がたまってるよ。

ここの屋根の下はぜんぜん雨が当たってないね。こんなところにあり地獄があるよ。

あっなんだかいいにおいがするな。ここは給食室のウラなんだね。きょうの給食はなんだろう？ おなかすいてきたぞ。長靴のなかも濡れてきちゃったからそろそろ帰ろうか。

# 植物と関わる活動

キーワード:

## 植物との多様な関わり方

- 枝やつるにぶら下がる
- 木に登る・揺らしてみる
- 枝を拾う
- 木のおいをかぐ
- 花や葉っぱを摘む・形を比べる
- 樹液やヤニに触る
- 花や葉っぱをすりつぶす
- 木になっている実を取る・食べる

## 植物がもたらす味わい

- 木のごつごつした感触を感じる
- 木陰の涼しさを感じる
- 風に葉がそよぐ音を楽しむ
- 木の香りを楽しむ

## 植物と関わることによる気づき

- さまざまな木があることに気づく
- 秋になると葉の色が変わり、落ちる木があることに気づく
- 木の樹液に集まる虫がいることを知る
- 木が水に浮かぶことに気づく
- 木に巣を作る鳥や虫がいることを知る
- 葉や花をすり潰すとさまざまな色水が作れることを知る
- 木と人間の生活の結びつきに気づく



森や林であそぶときのポイント・注意点

## 植物と関わる活動における各年齢のねらいの例

### 3歳未満児

- 木に触ってごつごつした感触を味わう
- 乾いた小枝や松葉を踏む感触を楽しむ

### 3歳

- 森の中にさまざまな虫や動物がいることに興味を持つ
- 松ぼっくりやどんぐりを拾うことを楽しむ
- 枝をひろったり、花を摘んだりして、森の環境に親しみをもつ

### 4歳

- 拾ってきた小枝やどんぐりで作品を作ることを楽しむ
- 花や葉っぱをすり潰してきれいな色水を作ることを楽しむ

### 5歳

- 大きめの枝を組み合わせて、友だちと基地を作ることを楽しむ
- 道具を使って木を切ったり、板を打ち付けたりすることに意欲的に取り組む

### 環境構成上の工夫

\* 木とのさまざまな関わり (tree/wood)